

家庭教育だより



まごころ

No.36

平成30年 3月号

編集・発行 深谷市教育委員会 生涯学習スポーツ振興課
家庭教育だより「まごころ」編集委員会
〒366-0823 深谷市本住町 17-3 TEL048-572-9581

「未来を担う子どもたち」を育む学校・家庭・地域の連携

近年、情報化（IT）・グローバル化が進み、子ども達をとりまく環境も大きく変化しています。また、AIの進歩に伴い、職の在り方などに関して不透明な時代が訪れようとしています。そんな社会の変化に対応し、子ども達が希望をもって未来を切り拓いていくためには、学校・家庭・地域が連携していくことが重要です。そんな中、学校では「※キャリア教育」の一環として、「体験を通して学ぶことの大切さ、働くことの喜びや厳しさ、そして生きることの素晴らしさ」を伝えていきます。地域社会と連携したキャリア教育の実践を家庭教育に取り込んでいくことで、子ども達の学びを一層意義深いものにしてくれると思います。そこで、保護者の方々が、どんなきっかけで現在の職業についたのか、仕事を通して感じている喜びや厳しさなどについてお子さんと話し合ってはいかがでしょうか。

また、お子さんの将来の夢や就きたい職業について話し合うことで、家庭での会話も増えるだけでなく、お子さんの新しい一面が見えてくると思います。一番身近にいる大人からのアドバイスは、子どもにとって心強く、将来に向けた取り組みに勇気が湧いてくるのではないのでしょうか。

今月号は、子ども達が働く人から学んでいる様子や実際に体験している様子を紹介しています。是非、親子の話題に取り上げてみてください。

※キャリア教育とは、子どもたちの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育です。

「夢をはぐくむ活動」

上柴東小学校の、①4年生のくすのきタイムにおける「1／2成人式～働く人たちから学ぼう～」、②6年生の社会科見学における「職業にふれてみよう」の取組を紹介しします。

①「1／2成人式～働く人たちから学ぼう～」

4年生は10歳（20歳の二分の一）になる今、自分は何に関心を持ち、どんな大人になりたいかを考え、働いている方々からお話を伺い、働くことの大切さや自分にとって大切なことを学んでいます。今回、お話をしてくださった方は、消防士・美容師・看護師・保育士・パティシエ・アスリート・オートレーサーの方々です。本校を卒業し、活躍なさっている方や、地域に関わる方々からも沢山の協力をいただき、子どもたちにとって大変、貴重な機会となりました。そこで、子どもたちに質問をしてみました。



Q.「働く（仕事をする）」ということは、どのようなことだと思いましたか。

- ・人々の役に立つために、一人一人が自律的に動くことです。
- ・さまざまな人と協力することで、教え合ったり助け合ったりして、成功へ近づいていくことです。
- ・社会をより良くし、自分を成長させることだと思いました。
- ・自分や周りの人を幸せにすることです。

②「職業にふれてみよう」

6年生は、社会科見学において、子どもたちが職業を選び、実際に職業体験を行いました。子どもたちは、新聞記者になって取材を体験してみたり、飲食店の店員になって実際に食べ物を作ったりと、普段の授業とは違った体験ができました。この職業体験を通し、社会のルールやマナー、働くことの喜びや厳しさを学ぶことで、達成感や将来への希望を持つことができたようです。それでは、実際に体験した子どもたちの声を聴いてみましょう。



Q.体験を通して、将来自分は「こんな仕事をしてみたい」「こんなことをしてみたい」という思いが持てましたか。

- ・夢はまだ決まっていないけれど、どういう職業があるか、仕事場はどんな所なのかがわかり、選択肢が増えました。
- ・働くことは大変だけど、しっかりと人と向き合い、諦めない気持ちを強く持ちたいです。
- ・外国の人が興味をもつような、他国との交流がある仕事がしたいです。

保護者の声

- ・宅配便の体験をして少しの間だったので楽しくできたけど、それを1日中するのは大変で宅配便の仕事をする人を尊敬したようです。大人になって辛い事も自ら進んでできる人になってほしいと思いました。
- ・接客業を体験して、人と携わる仕事の楽しさを感じることができたようです。働くことの楽しさや、やりがいを感じ、自分の世界を広げていってくれたらと思います。
- ・社会には、たくさんの職業があり、様々な関わりによって成り立っている事を学んだようです。この体験を通して、自分に合った職業を見つけ、目標とし、これからの生活に役立てながら、成長してほしいと思います。

先生の声

教師は、日々指導・支援していくことで、子どもたちを育てます。それは未来を創ることにつながる、とてもワクワクする仕事です。その反面、一人一人の人生に関わるので、責任は重大です。決意するまでに、悩んだ時期もありました。しかし、教育実習で活き活きとした子どもたちと関わる中で、「やはり、教師になりたい」と決意しました。机に向かう勉強だけでなく、知りたいことについては専門家に学びに行ったり、できる体験は何でもやってみたりしました。不思議と、一見関係のないようなことでも、必ず何かにつながり、将来に役立つということがわかりました。かつての自分がそうであったように、将来について悩んでいる人も、周りの友達を大切に、なんでもチャレンジしてみたいと思っています。将来、子どもたち一人一人が成長し、活躍する姿を見守ることができると思うと楽しみで仕方ありません。

（深谷市内小学校教員）

小学校での『がん教育』

現在、日本人の2人に1人が「がん」になり、死亡原因の1位が「がん」です。がんについて正しく理解できるようにし、健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにするために、文部科学省は「がん教育」の全国展開を目指しています。深谷市では、深谷小学校6年生を対象に東都医療大学の先生を外部講師に招聘し、「がん教育」の授業を行いました。

「がん」ってどんな病気なの？
「がん」にならないように
どうしたら良いの？
大切な人を「がん」から守る
方法とは？



＜児童の感想＞

がんという病気は、様々な理由からなることがわかりました。今回、教わったことを生かし、今の私にできる生活習慣に気をつけることを通して、私も周りの人も、がんにならないように気を付けていきたいです。

大人になっても、なかなか「がん」について学習する機会はないものです。「がん」は治らない病気だとか、とても怖い病気だとか思っていないでしたか？

小学生や中学生のうちから健康な生活習慣を心がけ、がんの予防をすることが大切です。がんは、早く発見して適切な治療をすれば健康な生活に戻ることができる病気です。

今回の学習をきっかけに、家族みんなでがんについて話し、健康の大切さについて考えてみましょう。

親子でクッキング

～時短・おてごろレシピ～



給食で、子どもたちに人気のあるホイル焼きレシピです。
家庭のグリルで簡単にできる、2品をご紹介します。

＜作り方＞

- ① 鮭に塩、こしょう、酒で下味をつける。
- ② 明太子、マヨネーズは混ぜ合わせておく。
- ③ アルミカップに下味した酒を入れ、明太子ソースをかけ、パセリをふりグリルで焼く。（約10分）



鮭の明太マヨネーズ焼き

鮭切り身	4切れ
辛子明太子	10g
マヨネーズ	大さじ2
塩・こしょう	少々
酒	小さじ1
パセリ（乾）	少々
アルミカップ	

＜作り方＞

- ① ねぎは粗みじんにする。
- ② Aの調味料とねぎを混ぜ合わせたものに鶏肉を漬け込み、少しおく。
- ③ アルミカップに入れ、グリルで焼く。（約15分）



鶏肉のねぎマヨポン焼き

鶏肉切り身	4切れ
長ねぎ	10g
塩・こしょう	少々
A マヨネーズ	大さじ2
ポン酢	小さじ2
アルミカップ	

わが校自慢

はなそのちゅうがっこう 花園中学校 ～毎年恒例もちつき大会！！～



花園中学校は、旧花園町に位置する、地域唯一の中学校です。「ふるさと花園を愛する子を育てる」と、地域の方々には、いつも温かく生徒を見守って頂いています。そのような温かい地域の方々の支援のもと、花園中学校では、毎年12月の第1土曜日に、もちつき大会を実施しています。本年度も12月2日（土）に、地域の方々、PTA、更生保護女性会、学校応援団、親父の会の方々のご協力を得て、200名以上の生徒たちが参加し、総勢約300名で盛大にもちつき大会を実施しました。もち米60kgを4つの臼でつき、あべかわもち、からみもち、いそべもち、お汁粉を作りました。つきたてのモチはとても美味しく、思い出に残るもちつき大会になりました。このような行事を通して、生徒たちが心豊かに成長していけるよう、学校、家庭、地域が連携して、教育活動に取り組んでいます。

＜保護者の声＞

蒸かしたもち米を、臼と杵でつくという体験は、子ども達にとって、とても新鮮で貴重な経験になったと思います。地域の方の協力もいただき、笑顔あふれる、楽しい時間を過ごしました。

＜地域の方の声＞

餅つき大会では、生徒、校長を先頭に教職員、保護者、地域のボランティアの皆さんが打った餅を食べ、明朗に楽しく交流を図り、絆を深めることができました。家庭、地域と花園中学校が団結した素晴らしい活動に感動しました。

＜実行委員の生徒の声＞

・大根をすったり餅をついたり、普段できない経験ができて楽しかった。
・もちつき大会で、地域の方のありがたみがわかった。
・もちをいっぱい作り、食べてもらってうれしかった。



♡子育てだより♡



「うちの子はどうして勉強ができないの?」「なんですぐ怒ってしまうの?」など、子どもの様子が気になっている保護者の方が増えているようです。“子どもの個性か、それとも発達に課題があるのか”と心配は尽きないものです。なぜ心配になってしまうかというと、学校という大きな集団生活の中で、周りの子と比べて子どもをみることが増えてくるからではないかと思います。しかし、子どもの成長スピードはみな同じではなく、それぞれの育ち方をしています。そこには、取り巻く環境や子どもの持っている気質なども関係しています。保護者の方々もご自身に得意な事、苦手な事があると感じることはないでしょうか。発達障害であるかどうかについても、はっきりとした境界線はなく、線引きは難しいと云えるでしょう。また、発達障害は親の育て方によるものでは決してありません。ただ一つ言えることは、どんな子どもも、頑張ってもうまいかないうことが多い場合、自信や意欲を失いやすいということです。だからこそ、できないことではなく、できていることに目を向け「がんばったね・よくやっているね・ありがとう」などの言葉がけと共に、成長を焦らずあたたかく見守っていくことが大切だと思います。

深谷市立教育研究所 学校福祉相談員

教育研究所では、お子さんの健やかな育ちを応援するため、ご家族や本人との相談を行っています。

〒366-0823

深谷市本住町12-8

☎048-572-9456

まごころクイズ

今号で紹介した、小学校の取組はどちらの小学校でしょうか。

- ① 上柴西小 ②：上柴東小 ③：藤沢小 ④：桜ヶ丘小

はがきに、答え・〒住所・氏名・年齢・電話番号・ご意見や感想を明記の上、平成30年3月26日（月）（消印有効）までに下記のあて先へ。正解者の中から抽選で10名様に粗品を差し上げます。

あて先 〒366-0823 深谷市本住町17-3
深谷市教育委員会生涯学習スポーツ振興課「まごころ」担当へ
TEL 572-9581 FAX 574-5861